

9月29日木曜日に、「SDGsの地球的課題を解決するための変容的行動(Transfomative Action)とは何か」というテーマで宮城教育大学教育学部、教授の市瀬智記先生による講演会がありました。「SDGs」についての基礎的な知識を始め、「日本の現状」やテーマにもなっている「変容的行動」について講演していただきました。



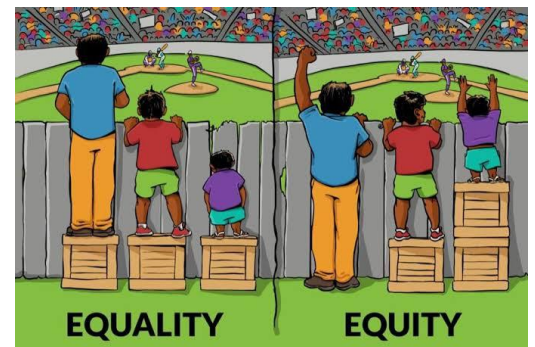
## SDGsについて

### (1)サステナビリティ

Sustainability(持続可能性の概念)はブルントラント報告によって認知されるようになり「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」のこととされています。

### (2)平等と公平

右図は、「Equality(平等)」と「Equity(公平)」の違いを表しています。世の中には障害を持っている方や生活のために働かなければならない子供たちなど様々な境遇があり、どんな人でも生きていきやすい世界を作る必要があります。「平等」ではなく「公平」を目指そうという考えは、SDGsを達成する上で大切になっています。



## 日本の現状について

SDGsについては聞いたことがある人でも、日本のSDGs達成のための取り組みの現状まではよく分からないという人もいます。日本のSDDs達成度は163カ国中19位で、特にジェンダー、環境についての問題を抱えています。

### (1)ジェンダー面

ジェンダー差別については、プリキュアや戦隊ヒーローの色におけるイメージカラーと性別の関係を例に少しずつ日本でも意識されるようになってきていることを説明がありました。目標達成に向けて世間の意識は変わりつつありますが、世界と比べ日本は遅れておりまだまだ改善していく余地があります。

### (2)環境面

環境面で抱えている問題も多くありますが、高校の課題研究の一環として、廃棄されるはずだった椎茸の軸を有効活用してレトルトカレーを作るなど、高校生が積極的に取り組んでいる例も見られます。

**「1人でできることではなく、10人でできること、100人でできることを考えよう。」**

このことは様々な課題について考え、将来のキャリアと結びつけ、自己変容と社会変革のためにアクションを起こすこと、すなわち変容的行動の上で大切な考えになっています。

## ～講演を聴いての感想～

・現代は技術が発達し、スーパーコンピュータなどがあるため、過去のデータ、資料を参考にして課題解決へと導くこともできるが、それ以上に人々の行動があってこそだと感じた。今この瞬間にも差別や不平等などで悩んでいる人がいて、社会的公正性の重要性を見つめ直すべきだと思った。いくことが大切だとも思った。

・近年、SDGs など、格差をなくして平和で持続可能な社会をつくるための対策がおこなわれていて、SDGs の達成につながる MDGs が設定されていることを初めて知った。このような対策が行われている中でも、深刻な格差の問題と最貧民層などの人々が取り残されているということも、新たに知ったことだった。今回のように私たちが実態を知ることがそのような人々を救い、社会問題を解決することの手がかりになると感じた。

・紹介された高校生の研究のヒーローと色の関係について、色が性別の差別となり得るということを知り初めて考えた。しかし、現代の社会では色が人に与える印象を利用して作られているものも多く存在している。差別と利用の境界を見極めるのは難しいと感じた。また、SDGs 推進派がオイルメジャーに命を狙われるということだったが、環境の破壊は経済の成長と表裏一体となってしまうと分かった。しかし、石油を売って生きている人がいるということも事実であり、段階的に環境破壊を進めていくのが現実的な流れだと思った。

実生活で、次世代のことを考えたり、気候変動に注目したりすることは今までなかった。しかし、思っていたより現実には厳しく、目を背けられないほどはっきりとしたデータが出ているのだと知った。話し合いの時間に貧困をなくす方法を考えたが、教育・寄付・技術を伝える以外の新しいアプローチを考えるのがとても難しいと感じた。



### 編集後記

今回の講演では、市瀬智紀先生に、世界での環境問題への取り組みや公平と平等といったSDGsについてのお話を頂きました。講演を聴いて、知っていたようで考えたこともなかったことが沢山あることを実感しました。また、私たちのこれからの課題研究に活かしていきたい考え方を得ることができ、良い経験となりました。

改めまして、市瀬先生、この度は貴重なお話をして頂きありがとうございました。